

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1	11.24(水)	修斉	発言者A	<p>修斉校区は北阪町のように、大阪外環状線より山手にも校区が広がっている。学校までどれくらいの時間を歩けば通えるのか、実際に歩いて確認してみたところ、北阪町から修斉小学校までが約25分、北阪町から葛城中学校までは約50分であった。</p> <p>校区が拡大し、小学生も、現在の葛城中学校まで通わなければいけないということになれば、中学生や小学校高学年ならともかく、低学年の児童がランドセルを背負って50分も歩けば、学校に到着する頃にはへとへとになっていると思う。</p> <p>教育の基本は安心安全。土生滝交差点からの道路は、歩道がない部分も相当ある。そういった危ない箇所も残っている。どうやって安全安心を確保するのか。</p> <p>スクールバスを導入するのかもしれないが、スクールバスに乗り遅れた子どもをどのようにケアするのか。</p> <p>また、スクールバス導入地域は多数あるが、バスに長く乗っていることで、体力不足になる問題がみられる。そのため、多くのところでは、手前で降車し、学校まで歩くということが、現実に行われている。</p> <p>葛城中学校の近くには、降車場所がないなど、今回の計画（案）は、物理的に、安心安全の面で欠点がある内容である。</p>	<p>実地調査を行っていただき、感謝する。</p> <p>適正規模・適正配置の取組の目的は、より良い教育環境の整備と、学校教育の充実であり、通学路を含めた安心安全の確保についても、最優先事項だと考えている。</p> <p>危険箇所への対応といった課題解消の取組については、開校までの間、地域の皆様と協議しながら、しっかりと取り組んでいく。</p> <p>スクールバスについて、すべての児童生徒が乗車対象だとは考えていないが、通学に際して、子どもたちの安心安全が確保できない場合、他地域との均衡にも配慮しながら、導入していきたい。</p> <p>乗車時刻に間に合わなかった児童生徒への対応については、他市事例も参考にしつつ、保護者の皆様の不安を解消できるような方策を検討していく。</p> <p>なお、仮にスクールバスを導入したとして、導入による体力不足が見受けられる場合、体力の維持向上に努めていく。</p> <p>また、乗降時の事故を防ぐため、乗降場所及びバスの進入路については、地域の皆様のご意見をいただき、決定していきたい。</p>
2	11.24(水)	修斉	発言者A	<p>具体的な対策が何も決まっていないうだが、計画を推進できるのか。また、本日説明に来ている職員は、実際に校区を歩いたことがあるのか。</p>	<p>本日説明している実施計画（案）については、通学環境をはじめ、各学校の規模や配置バランス、地域コミュニティ等を総合的に鑑みて策定し、お示ししているもの。</p> <p>確定した計画ではない中、地域や保護者の皆様のご意見を聞く前から教育委員会が様々な事項を決めていくということは、好ましいことではないと考えており、計画（案）に対する様々なご意見をいただく中で、通学の安全確保の方策についても具体化を図っていく。</p> <p>なお、想定される、新たな学校までの通学路についても、教育委員会職員が実際に歩いて確認している。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
3	11.24(水)	修斉	発言者B	<p>元小学校教員として、小学生と中学生が、同じ敷地内で学習することについては無理があるのではないかと懸念している。</p> <p>例えば運動場について、中学校では200mトラックが必要であり、小学校では1周100mそこそこのトラックを設ける。小学校では、体力づくりのため、低い鉄棒や、登り棒、ジャングルジムといった遊具が必要になってくる。小学生と中学生の体力レベルは異なるため、同じ運動場で同居することは無理だと思う。</p> <p>また、資料にあるイメージ図を見ると、グラウンドは1面だと思うが、取組を進めるならば、最低限2面が必要だと思う。</p> <p>葛城プールも、経費云々で長い間中止になっており、もったいない。今回の話も、経費の問題で出てきたのだと思うが、それでは、一人ひとりの子どもの教育を保障する立場に立っていない。</p> <p>体育館についても、中学校で求められる大きさは小学校のものより大きい。同じ体育館を共用するのは、どちらにも我慢が生じる。利用時間の関係でも、取り合いになってしまう。ゆったりと空き時間があってこそ、グラウンドや体育館を活用し、自由な活動ができる。学級数が増えると、自由に使えない。</p> <p>グラウンドを2面設ける、体育館を2か所設けるという覚悟で取り組むべきであり、安上がりには済ませようとするならば、絶対に反対。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組は、経費削減を目的とするものではない。子どもたちのより良い教育環境の整備と、学校教育の充実が最優先であり、子どもたちが将来にわたってたくましく生きていくために、小学校のうちから、一定の集団規模が確保された教育環境を整えていくことが目的である。</p> <p>資料でお示した図はイメージ図であり、この計画を進めるとなった場合には、設計段階において、校舎のレイアウトや、児童生徒の運動スペースの確保をしっかりと考えていく。先進事例では、小学生と中学生が十分に活動できるよう、使用時間を分けて対応しているという事例もある。</p> <p>また、現在市内各地の市民プールについては、酷暑の影響や、民間プールの増加等により利用率が減少しており、授業の実施を天候に左右されること、施設の老朽化が進んでいることといった課題がある中、今後のあり方を検討しているが、仮に葛城プールの敷地を活用できる状況になれば、学校の活動スペースとして検討したいと考えている。</p> <p>さらなる活動スペースが必要とされる場合、校舎屋上も活用するなど、可能な限りの確保に努めていきたい。</p>
4	11.24(水)	修斉	発言者C	<p>小中一貫校にすることが目的なのか、校区の適正配置が目的なのか。市全体を視野に入れた計画なのか、今回示された校区についての計画なのか。</p>	<p>今回の取組は、岸和田市内の学校全体で、適正な学校規模をめざしていくことが目的であり、今ある学校をすべて小中一貫校にしていくことを目的にしているのではない。</p> <p>市内の学校が小規模化し、子どもたちの教育環境に課題が生じている中、多様な考えに触れる機会や、様々な学習形態を確保するためにも、一定の集団規模が確保された学校を整備していくことが必要であり、小・中学校ともに小規模化している地域では、小学校と中学校を同じ敷地に整備する方が、教員や子どもたちの交流・連携を図りやすく、より良い教育環境の整備に資すると考え、現在の計画（案）をお示ししている。</p> <p>一方、すべての小・中学校を同じ敷地に整備できるのかと言えば、物理的に困難な校区もある。そういった校区においては、施設分離型での小中一貫教育を実施する。施設が離れていても、小・中学校間の連携については、密に行っていく。</p> <p>これまで小中連携教育については各中学校区で実施しており、子どもたちが、小学校から中学校に進学する際の環境変化で躓くことのないよう、スムーズな移行に向けて取り組んでいる。これを発展させていくものが小中一貫教育であり、どのような取組が可能なのか、現在討議を重ねている。今回お示ししている小中一貫教育基本方針は、小中一貫校を整備する方針ではないので、ご理解願う。</p> <p>なお、適正化対象校には浜手の学校も存在するが、山手地域においては、小・中学校ともに小規模化しており、義務教育9年間にわたり小規模化の課題が生じていることから、優先的に取り組む必要があると考えている。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
5	11.24(水)	修斉	発言者C	<p>この計画を提示するにあたって、教育委員会だけでなく、行政部門とのすり合わせを行ったのか。行ったのであれば、行政部門のしかるべき職員が同席していてもよいと思う。本日のメンバー構成はどうか。</p>	<p>本日、市長部局の職員は同席していないが、実施計画（案）を策定するにあたり、地域コミュニティを所管する自治振興課、防災、避難所を所管する危機管理課といった部局等との協議を重ねてきている。</p> <p>市長部局とも同じ方向性で取組を進める必要があるため、市長をはじめ、特別職も参加する政策決定会議においても承認の上、現在に至っている。</p> <p>今後、地域の皆様と協議を重ねる中で、市長部局に関する内容の詳細について話し合う機会もあると想定している。その際には、関係部局の職員も同席する必要があると考えている。</p>
6	11.24(水)	修斉	発言者C	<p>この地域は人口が減少しており、過疎化が進む危機感を地域住民として抱いている。その中で、学校の統廃合をすれば、校区が拡大し、人口減少に拍車をかけることになる。可能であるならば、現在の修斉小学校で小中一貫校を検討してほしい。</p> <p>この地域でも、一部住宅開発がなされてきた中、これまでは意外と簡単に通学区域が決められてきた。例えば土生滝町の飛び地であっても、光明小学校区になっている場所があり、それに対して説明に来るわけでもなく、文書での通知を以て返答を求めてくるといった状況が続いていた。こういった積み重ねが、現状につながっている。</p> <p>修斉小学校を残したまま、土生滝町の飛び地や、葛城中学校の近くの土生町といった地域からも修斉小学校へ通学することにすれば、児童数200人を割り込むような事態にもならなかったのではないかと。</p>	<p>人口減少が全国的な課題となる中、岸和田市においても人口減少が続いており、その理由として、子育て世代の社会減が目立つということが挙げられる。</p> <p>子育て世代に岸和田市を選んでいただくため、子どもたちのためのより良い教育環境を整備していくことが必要だと考えており、今回の取組を推進しているところ。</p> <p>修斉小学校をはじめ、地域の皆様に支えられてきた小学校を、それぞれの地域に残すべきという考えは理解するが、そうすると、各校の小規模化がさらに進行するということになり、子どもたちの教育環境を考えた際には望ましくないと考えている。</p> <p>なお、今回の計画（案）については、各学校の規模や配置バランス、通学距離、地域コミュニティ等を総合的に勘案した中で、中学校区を単位とした適正化が望ましいと判断した上で、たたき台としてお示ししている。</p>
7	11.24(水)	修斉	発言者D	<p>統廃合問題に関心を持ち、これまで浜中央、修斉、天神山、旭太田、山直南校区の説明会に参加してきた。</p> <p>浜中央校区の説明会では、具体的にどう統廃合するかという説明がなく、当日も「具体案はないのか」という質問がなされていた。今後2年間かけ、地域との協議を経て、具体案をまとめていくということであったが、山手地域では勝手に具体案を作られている。この点がおかしい。</p> <p>暴論であり、そんな方法は望ましくないとと思うが、岸和田市役所が福祉センター隣接地に移転すれば、市役所跡地に設置するという具体案もすぐに思いつく。恐らく、教育委員会もこういった案を検討いただろうが、市長部局の反対も受けたのだろう。</p> <p>いずれにせよ、片や勝手に具体案を示し、片や地域住民とともに具体案を作っていくというやり方に疑問。</p>	<p>今回の第1期計画（案）においては、小・中学校ともに小規模化が進行し、義務教育9年間にわたり教育環境に課題が生じている山手地域を適正化対象とした。</p> <p>浜・中央小学校については、第1期計画の進行と並行して、第2期の実施計画（案）として、教育委員会の責任において提示する。なお、第1期計画と同じく、具体的な案としてお示しする。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
8	11.24(水)	修斉	発言者D	<p>泉州山手線が開通すれば、人口が増加し、子どもの数が増えるのではないかと思うが、そのことは考えられていない。</p> <p>昨日開催の山直南校区説明会においても、現在開発中で、最終的に275世帯が居住する岸の丘町では、400～500名程度の子どもの数が増えるとされていた。15～20年程度の期間増加すると考えられ、仮に15年で割ると、学年あたり30人、小学校6学年で180人程度の児童が山直南小学校で増加するため、学年あたり2クラスで、適正規模とされる12学級の学校になることが明らかに想定される。適正規模になる学校を統廃合する根拠は何もないのに、そのことは考慮していないなどと述べる。</p> <p>岸の丘町に住む保護者が、パンフレットでは1kmの距離がある山直南小学校に通うとしているが、市は3kmの距離がある山滝地区の学校に行けとしているのではないかと、住宅メーカーに抗議したとも聞く。住宅メーカーは、市は山直南小学校に通えると言ったので、パンフレットに記載したとしており、市に騙されているような現状。</p>	<p>岸の丘町においては、今後約270世帯が居住し、約1,000人規模のまちが完成すると把握している。</p> <p>過去、市内外における新興住宅地で増加した子どもの割合を鑑みた上で、岸の丘町の現状をみると、小学生で100人強が増加すると見込んでいる。</p> <p>また、検討に係る児童数推計の考え方として、現在校区に住む0歳児から小学生までが、その校区で年齢を重ねると仮定した場合の実数を令和9年度までの推計値としており、令和10年度以降は校区の出生率を参酌し、校区ごとの推計値を算出している。</p> <p>岸の丘町における児童生徒数については、今後も随時、お示しできる限りの数値を提示していく。</p>
9	11.24(水)	修斉	発言者D	<p>岸和田市は100周年事業として、泉州山手線に関連したまちづくりを進めようとしている。泉州山手線に関して、貝塚市では既に工事が始まっており、大きな物流センターを作っている。岸和田市でも、山直北地区と光明地区では工事が始まった。山直南校区説明会出席者の話では、三田町より浜側は市街化区域になり、包近町より山側は市街化調整区域のままということであったが、市のプランでは、修斉地区は産業誘致地域で、住宅もつくとされている。</p> <p>修斉、天神山、太田地区の中心は修斉地区としており、岸和田塔原線との交差点に、大きなセンターを造るんだとも書いているのに、なぜそういったことを言わないのか。実際、修斉小学校区の児童は、病院跡地の開発等もある中で増えている。</p> <p>本当は市政100周年に合わせて泉州山手線の工事に着手したかったようだが、早ければ5年後、遅くとも10年後には工事が始まるだろう。修斉小学校は、35人学級編制においても各学年2クラスの適正規模校になる。</p> <p>山直南校区説明会での答弁で、児童生徒数が増加しても、ピークを超えると減っていくとしていた。これはそうだと思う。天神山小学校もそうだった。しかし、修斉小学校区においては10～20年にわたり増加傾向に進む。なぜそれを言わないのか。</p>	<p>泉州山手線を所管している市長部局の市街地整備課、都市計画課、また開発許可を担う建設指導課からも十分に話を伺い、現在の計画に人口増加の記述があるか確認した。</p> <p>泉州山手線が延伸することで、例えば市街化調整区域内を通る場合、近隣の市街化区域において住宅が増加する可能性はあるが、現状において、人口増加の記述はしていないということであった。</p>
10	11.24(水)	修斉	発言者D	<p>22日、山直南校区説明会では地元町会から反対署名が手交されていたが、何筆だったのか。</p>	<p>山直中町会から、1,000筆を超える署名を受け取った。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
11	11.24(水)	修斉	発言者B	<p>学校へ行く年齢になっても、何とか学校へ行く子ども、学校になかなか慣れない子ども、そんな子どもたちが、小学生として1年1年を積み重ね、6年生になって、ようやく卒業していくもの。</p> <p>子どもを人数だけで扱ってほしくない。この計画が進めば、不登校の児童も出てくるのではないかと。1人でも不登校を出さないのだという決意で、進めるべき。学校が遠くなると、学校に行きにくい子どもも増えると思う。</p> <p>先ほどは運動場や体育館を2面確保すべき、という話もしたが、それは、遊び場を含めた様々なものをきちんと保障しなければ、子どもたちは育たないという考えからである。</p> <p>賛同さえ得られれば運動場も適当に作るということではいけない。簡単に統合と言わずに、再検討を願う。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組に関わらず、現在、岸和田市内の各学校における、不登校は相当数存在する。どの学校や幼稚園においても、子どもたちが元気で、安心安全のもとに通学・通園することが最も望ましいことである。</p> <p>子どもたちが、少しでも学校へ通うことができるよう、これまで市全体で取り組んできた。不登校のみならず、その他問題行動に対しても、しっかりと継続的に取り組んでいく。</p>
12	11.24(水)	修斉	発言者E	<p>神須屋町が、4小学校区に分割されていて具合が悪いということについて、数十年にわたる町会から要望を重ねてきており、ようやく認識されたと感じている。ただ、飛び地等、混ざっている場所も多く、それら地域においては旭・太田校区の町会に入っておられるため、賛成を得られないだろうとも思う。錯綜している部分については、調整区域にしてほしいと要望してきたのであり、すべてを修斉校区にすべきとは考えていない。</p>	<p>これまで地域説明会を実施する中で、旭・太田校区の神須屋町にお住いの方からも様々なご意見をいただいたところ。</p> <p>今回の計画（案）はあくまでもたたき台であるが、地域コミュニティを勘案する中で、同じ町に住む方は同じ学校に通うことが望ましいのではないかと考え、現案を策定した。ただ、これに対するご意見についてもしっかりと受け止め、今後協議を重ねていきたい。</p>
13	11.24(水)	修斉	発言者E	<p>神須屋町においては、現在も新たに住宅を建設しているところであり、真上町でも30軒ほど住宅が増えていると思う。</p> <p>現在の資料にあるように、単に校区ごとの出生数から推計を算出すれば、当然児童数は減少すると思うが、校区内でも浜手側から順番に、また泉州山手線が延伸すればさらに、人口が移動してくると考えている。</p> <p>以前市長部局と協議をした際、人口動態として、神須屋町は現状維持もしくは増加だと示されていたと思う。</p> <p>修斉校区に来たい、という方を含めば、右肩下がりの児童数推計になるはずがない。修斉小学校は、現状でも200人を超える可能性が高い小学校である。現在示されている数字で判断を求められても、無理がある。</p>	<p>教育委員会として、各開発事業者が、どの区域をどの程度、いつまでに開発していく、ということは読み切れない部分もあるが、適正な学校規模と考える12～18学級に至るには、350人程度の児童数が必要だと考えており、200人程度の児童数では小規模化の課題が解消されず、子どもたちの教育環境を最優先に考える上では、好ましい規模ではないと考えている。</p>
14	11.24(水)	修斉	発言者E	<p>以前、小規模な葛城中学校において、子ども同士のちょっとした諍いから背中を押して、大怪我を負わせるという事件が起きたことがあった。</p> <p>殴り合うような喧嘩をしているわけでもなく、後ろから押すだけで、中学生同士でも大きな怪我を負う。それを踏まえ、小中一貫校で、小学生と中学生を一緒にすることはいかがなものか。身体は大人並み、心は小学生から+aという成長段階の中学生と、小学校低学年の児童は分けなければならない。</p> <p>町会としても、事故が起きれば、学校へ申し入れしてほしいといった要望がどんどん出てくることになる。小中一貫校はすべきでなく、小学校は小学校、中学校は中学校で置いておくべき。</p>	<p>国が小中一貫教育の手引を策定するといった状況において、全国的に小中一貫校が増加傾向にある。</p> <p>先進事例における現場教員の話を見ると、例えば小学生と中学生と一緒に過ごすに当たり、中学生から小学生への問題行動があるのではないかと、という当初の懸念とは逆に、荒れていた中学生が、小さな子どもと一緒に活動し、サポートすることで、落ち着いて学校生活を送れるようになった、小学生の側からも、中学生と接する中で、目標とすることができたという好ましい結果も伺う。</p> <p>岸和田市においても、望ましい形をしっかりと検討・研究していく。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
15	11.24(水)	修斉	発言者E	<p>現在、小学校には様々な大人が関わっている。学校行事をするにしても、地域の大人が応援に来る。例えば学校の福祉実習や、子ども教室もそう。交通指導員も地域の大人。大掃除や樹木剪定にも、大人が関わっている。</p> <p>小学校は、教員と児童だけで成り立っているわけではない。地域全体で成り立っている。</p> <p>修斉小学校がなくなれば、大人や高齢者とのつながりも切れてしまう。修斉小学校は、校区の中心に位置する。葛城中学校に学校が移ったとして、これまで小さな子どもたちを見守っていたのが、皆スクールバスで通学するとなれば、地域の一体感を維持することが非常に困難。</p> <p>神須屋町も、4小学校区に分割されるだけで、町会、子ども会の運営に大きな苦労があった。それをまとめて持っていく、そうなれば山手地域の過疎化も進んでしまう。じっくり考える必要がある。</p> <p>地域コミュニティのことを考えているとしているが、本当にそうなのか。神須屋町会は、教育委員会に対し、これまで様々なことを申し入れしており、状況をわかっているから説明会にも参加しなければと思ったが、地域にきちんと周知しているか。PTAにしか周知していないのでは。各地域にしっかり話をして、様々な意見を聞いてほしい。それが一番大切。</p>	<p>岸和田市の各学校では、それぞれの地域の皆様に見守っていただきながら、子どもたちが学校生活を送ってきたと認識している。</p> <p>一方、教育委員会としては、子どもたちの教育を最優先に考える中で今回の計画（案）を提示している。だからといって、教育委員会として地域コミュニティを無視することは考えていない。</p> <p>仮に学校が閉校となったとして、以降の当該地域におけるコミュニティのあり方は、地域の皆様が主体的に決定されるべきものだが、活動場所の確保や、運営方法の検討など、行政として可能な限りのサポートに努めていく。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
16	11.24(水)	修斉	発言者D	<p>小中一貫校に関して、全国の事例を調べており、日本で最初に小中一貫校になった広島県呉市の呉中央学園にも行ってきた。実際には、呉中央小学校と、呉中央中学校に分かれている。</p> <p>グラウンドは3面あり、真ん中にあるものは教員駐車場になっていたが、浜側に大きなグラウンドがあり、山側に少し小さい小学生用のグラウンドがある。体育館もあり、校舎も、中学校校舎と小学校校舎があり、間に別の校舎がある。</p> <p>聞くと、かつては1～4年生と、5～7年生と、8～9年生とで別々の校舎だったものが、現在は小・中学校で分かれており、真ん中にあるのは特別教室が含まれる総合棟だという。</p> <p>20年経過した結果、現在の形になっている。単純に小・中学生を一緒にしてしまうという事は行っていない。別々の良さがあるということ。</p> <p>また、日本一小さい自治体、東京都青ヶ島村立小中学校も見てきた。9学年で10人、教員の子どもが大多数を占めるようだ。教員数は23人。</p> <p>小中一貫校に反対しているような民間教育団体とも話をしたことがあるが、100人以下の規模ならば小中一貫校でもよいだろう、としている。理由として、子どもたちは小さい頃から一緒に育っており、中学生のことも昔から知っている。そういう環境では、問題も起こらないという。</p> <p>その団体でも、200人までなら大丈夫かどうかで意見が分かれているが、200人を超えると、人間関係上、初めて知ることが多く、上手くいかないが増えるため、小中一貫校の規模は極めて重要である。</p> <p>（仮称）葛城小中一貫校は800人規模であり、さらに特認校制度も検討するとしている。東葛城小学校では、特認校制度を利用する児童が40%近い状況。（仮称）葛城小中一貫校で40%も増えるとは思わないが、それでも増加することは確か。そんな大規模校をつくってどうするのか。</p> <p>300人いれば12学級、と説明があったが、35人学級×6で210、おおよそ240人程度であれば、過半数が学年2クラスになり、統廃合が不要な規模になる。修斉小学校も、今後間もなく学校全体で9クラスを超える学校になる。文科省がめざす30人学級が実現すれば尚更である。</p>	<p>100人以下であれば小中一貫校として成立し、200人を超えると成立しないということ は、根拠として認識していない。</p> <p>この間、小中一貫教育の重要性については、国の中央教育審議会で十分に議論され、文科省では推進に向けた手引も策定している。</p> <p>小中一貫校としての究極形である、小学校と中学校の境目をなくす「義務教育学校」についても、国会での審議を経て制度化されており、義務教育学校を含めた小中一貫校の、教育上の有効性については、国において十分に評価されている。</p>